

世界マラリアの日

4月25日は「世界マラリアの日」

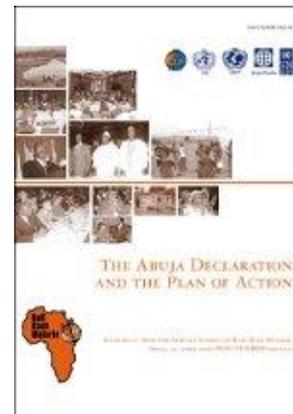
2018年世界マラリアの日：マラリアを打ち負かす時が来た

- WHO 事務局長からのメッセージ
- ビル・ゲイツ氏との質疑応答

4月25日は「世界マラリアの日」

2000年4月25日にナイジェリアのアブジャで「ロールバックマラリアのアフリカサミット」が開催され、アフリカの国々の首脳による「アフリカにおけるロールバックマラリアのアブジャ宣言」が採択されました。この宣言でアフリカのリーダーたちは、2010年までにマラリアによるアフリカの人々の死亡を半減するために尽力することへのコミットメントを表明し、4月25日を「アフリカ マラリアの日」とすることを宣言しました。

その後2007年5月に開催された第60回世界保健総会で、4月25日を「世界マラリアの日」とすることが決定され、翌2008年から実施されています。



関連リンク

The Abuja Declaration and the plan of action. An extract from the African Summit on Roll Back Malaria, 25 April 2000

<http://www.who.int/malaria/publications/atoz/whocdsrbm200346/en/>

WHA60.18 : Malaria, including proposal for establishment of World Malaria Day, 60th World Health Assembly (May 2007)

<http://www.who.int/tdr/about/governance/documents/WHA60.18.pdf>

(英語)

2018 年世界マラリアの日：マラリアを打ち負かす時が来た

World Malaria Day
#readytobeatmalaria #endmalaria
#worldmaliaday



今年の世界マラリアの日のテーマは「マラリアを打ち負かす時が来た」です。このテーマは、マラリアに関与している世界中の人々が「マラリアを無い世界」という共通の目標に向かってひとつになる集合的エネルギーとコミットメントを強調しています。人類の歴史で最も古くからある感染症の一つであるマラリアへの取り組みの大きな進展と成果をハイライトすると同意に、2017 年世界マラリア報告書に記載されている以下のような気がかりな傾向を強く訴えています。

- マラリアに対する世界の対策は十字路に立たされている。前例のない成功を取めた期間の後、進捗が行き詰ってしまった。
- WHO の 2016～2030 年マラリアの世界技術戦略の 2020 年のマイルストーン、特にマラリアの症例発症率及び死亡率の 40%削減を達成するには、現在のペースでは不十分である。
- マラリアの感染が続いている国々は、「排除に向かっている国々」或いは「マラリア症例の大幅な増加が報告されている高い疾病負荷を抱えている国々」、の2つのカテゴリーのどちらかに入るようになってきている。

早急に行動を起こさないと、マラリアとの闘いでこれまで勝ち取ってきたものが脅威にされされている。この「世界マラリアの日」に WHO はより多くの投資や、有効性が証明されているマラリア予防・診断・治療のツールのカバーの拡大を呼びかけ続けます。

WHO 事務局長からのメッセージ

原文（英語）：<http://www.who.int/campaigns/malaria-day/2018/dg-statement/en/>



今年の世界マラリアの日のテーマは「マラリアを打ち負かす時が来た」です。世界マラリアの日は少なくとも次の3つの意味で重要です。

第一は、この日は我々の成功を記念する日だということです。2000年以來、何百万ものマラリアによる死亡、特に子どもの死を回避することができました。マラリアを排除した国も増えてきています。

第二に、この日はまだ残っている課題を我々に思い起こさせます。最新のWHOのデータによると、世界のマラリア対策は十字路に立たされ、マラリア症例や死亡の減少傾向が行き詰って、マラリアプログラムへの肝要な資金が横ばいになっている。この状態が続くと、これまで懸命に戦い勝ち抜いてきた全てを失ってしまいます。

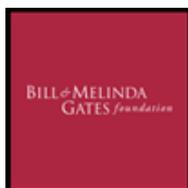
最後に、世界マラリアの日は全てのパートナーを、進捗のペースを加速化するという共通の目標の周りに団結させます。われわれは、国々やグローバルヘルスに関係する人々に対し、マラリア対策の決定的なギャップを埋めるように呼びかけます。我々是一緒に、マラリアを予防、診断、治療する救命サービスへのアクセスに、絶対誰人に取り残されないようにしなければなりません。

マラリア対策が再び軌道に乗るように、是非参加してください。私はマラリアをまさに今打ち負かす準備ができています。あなたはどうですか？

ビル&メリンダ・ゲイツ財団共同会長 ビル・ゲイツ氏との質疑応答：

マラリアのためにスピードアップする

原文（英語） <http://www.who.int/malaria/news/2018/interview-bill-gates/en/>



長期残効型殺虫剤処理済蚊帳、迅速診断テスト、アルテミシニンをベースとした併用療法（ACT）。これらの救命ツールは民間セクターや慈善財団の投資・参加がなければ市場に出回ることにはなかったでしょう。これらのツールや他のツールが広範囲で使用されることによって、今世紀になってから世界のマラリアの負荷の激減を達成することができました。ビル&メリンダ・ゲイツ財団共同会長のビルゲイツ氏が、WHO 本部の広報官によるインタビューで、何故マラリアが彼の財団にとって最優先課題なのかについて、全面的に語ってくれました。

WHO：2007年にビル&メリンダ・ゲイツ財団は、「誰一人もマラリアに感染してなく、地球上にいる蚊が全てマラリアを媒介しない蚊となる日が来る」ためのマラリアの根絶が財団の目標の一つである、と発表しました。何故財団はそのような決定を行ったのですか？

ビル・ゲイツ氏：マラリアは恐ろしい病気です。子どもを最も多く殺している病気の一つで、保健医療や経済的コストが膨大なため、実際にアフリカを抑え込んでいます。われわれが保健、特に子どもの保健を取り上げた時、我々は自分たちの優先事項としてマラリアに取り組まなければならないことを解っていました。2000年以来、マラリアは我々の優先課題です。数年後にグローバルファンドが我々に加わりました。そして2007年の会合で、もし我々がイノベーションを十分調整すればマラリアの地図を縮めることができ、最終的にそれを終わらせることができるはずだ、という考えを明確化しました。

WHO：11年後に我々はみんなでその目標を達成しようとしていることについて、どうお感じですか？

ビル・ゲイツ氏：主要な目安の一つ、恐らく一番重要な目安は、マラリアによる死亡数を減らすことです。過去10年間を振り返ってみると、その点では我々はとてもよくやっています。しかし通常、マラリアの場合、もし立ち止まったら、蚊と原虫の両方が我々

のツール、即ち蚊の場合は噴霧したり蚊帳に浸み込ませたりする殺虫剤に対して、原虫の場合は薬剤に対して進化してしまいます。ここ数年、症例が増加しているということは、パイプラインにある新しいツールを世の中に出して使わなければならない、ということです。このようなツールの課題は一面で、他方、政治的な面もあります。研究と開発にも投資する必要がありますが、他の課題の一つとして投資の頭打ちという課題があげられます。

我々は皆、投資を増加するために最大限の努力をしています。でも劇的な増加はみられていません。我々が持っているドルを持って、どこで成果を増幅させることができるのかに関するデータを集めなければなりません。ドナー国は寛容であり、英国がコミットメントを新たにしたのは素晴らしいことです。我々の財団もマラリアとの戦いに追加で10億ドルのコミットメントを行いました。このように我々は常に前よりも賢くなり続けており、ドナー、特に蚊帳や殺虫剤成分の最大の購入者であるグローバルファンドがこの戦いに参加し続けるのは素晴らしいです。

WHO: この戦いに参加するように他者～資金提供者であれ政治家であれ～を説得するためにどのような議論を使いますか？

ビル・ゲイツ氏: その人の国にマラリアがあるなら、隣人がマラリアで苦しむのを見ているわけで、答えはご察知の通りです。難しいのは、ほとんどの人がアフリカに行ったことが無く、コンゴ民主共和国やナイジェリア他マラリアにかかっている人々が未だにとっても多い地域がどのような様子か見たことが無い、ということです。最新のコミュニケーションの方法を使ってマラリアによる負荷がどのようなものかを見せ、マラリアを無くすための全てのツールの価格をどのように下げているのかを説明し、それらのツールを適格な所で活用するためにもっと賢くなり、マラリアによる死亡が劇的に減っているというワクワク感を共有するべきだと思います。ロンドンマラリアサミットでは「もし全てのパートナーが一緒になれば、2023年までにマラリアの症例を半減することができる」というとても挑戦的な目標が採択されています。

WHO: あなたが投資していてパイプラインにあるマラリアと戦うためのツールで、有用とあなたがしているものはどれですか？

ビル・ゲイツ氏: 現在、室内噴霧に使う殺虫剤、蚊帳に使う殺虫剤、そして医薬品、の3つが主要ツールとして挙げられます。殺虫剤に関してはリバプールに拠点を置く *Innovative Vector Control Consortium (IVCC)* が化学製品を扱う企業と組んで開発しているものが有望です。医薬品に関しては、アルテミシニンをベースとした併用療法

(ACT)のうちどれが最も有効かを精査しています。これに関しては良好な進捗状況で、また三日熱マラリアに対する新たな抗マラリア薬もいくつかパイプラインにあります。グラクソ・スミスクライン株式会社 (GSK) は *Tafenoquine* をもうすぐ市場に出せるところまできており、これは素晴らしいツールです。そして、より感度の高い、新しいジェネレーションの診断ツールもあります。

また、十分な持続期間があるとてもパワフルなツールとなるであろう、第二のジェネレーションのワクチンのアイデアもあります。それから最後に、実験室では蚊の遺伝子に関する研究が進められていて、クリスパー (CRISPR : *clustered regularly interspaced short palindromic repeats*) 関連のツールを使って少なくとも一時的に蚊の数を削減できる可能性があり、それにより問題地域を無くしマラリアの地図を減らすことができます。

WHO : これまでお答えいただいた話題の中であなたにとっては何が一番わくわくしますか？

ビル・ゲイツ氏 : 我々の財団は研究開発に多大な資金を提供しています。実際、単独で一番大きな資金提供者です。ですので財団には、医薬品に関しては *Medicines for Malaria Venture (MMV)*、ワクチンに関しては *Malaria Vaccine Initiative (MVI)*、といった製品開発グループがあります。このように私は研究開発がとても肝要だと思っています。また私は、どのツールがどこの地域で最も重要か、といった理解を深めるために我々が行っているモデリングの作業も好きです。もし室内で蚊にさされているなら蚊帳と殺虫剤散布が非常に有効です。もし屋外でより多く刺されているのなら、*attractive sugar bait traps* (糖を餌に呼び寄せる罠) のようなのが最も重要かもしれません。

遺伝子操作は、新参者と言うことができると思います。まだ概要や制御経路が十分明確にはなっていないので当てにしているわけではありませんが、特に蚊に刺される率がとても高い最も難しい地域に入り込むに連れて、これができれば大きな違いがでてくることは明らかです。

WHO : ハイテクとローテクの両方のツールがあるようで興味深いですね。蚊帳に2種類の殺虫剤を使用すべきであることを示すデータが手元にあるかもしれないけれど、結局、蚊帳があって、家族全員がその中で寝ることができるようにしようとしている両親のことをまだおっしゃっているのですね。コミュニティにおける活動や、これらのツールがより良く使われるためにはどうしたらいいか、をお話していただけますか？

ビル・ゲイツ氏：我実にそうなんです。現場ではどれだけの人々に行き渡っているか、がそのためのカギとなります。例えば、感染者が報告されたら、その人の家族や隣人のところに行ってその感染がさらに広がらないようにしようとする事ができるような症例追跡のようなこともです。

蚊帳に関するメッセージに関しても、最初に蚊帳を渡したときは皆きちんと使うが、時間が経つにつれて、メッセージを新たに発し続けないと、人々は蚊帳を使うのをやめ始めるばかりでなく、蚊帳自体がダメになってしまいます。

また我々は、どのコミュニティグループがメッセージを発信するのに信頼できるか、も見ています。アフリカのリーダーと一緒に集まった ALMA という組織があり、どの国がメッセージや好事例を拡散するのがうまくやっているか、などのデータを提供しています。彼らはとても重要で、我々にとって重要な存在です。

2018 年世界マラリアの日 関連リンク

World Malaria Day 2018: Ready to beat malaria

<http://www.who.int/campaigns/malaria-day/2018/event/en/>

WHO : World Malaria Day 2018 (英語)

<http://www.who.int/campaigns/malaria-day/2018/en/>

ロールバックマラリア (RBM) 2018 年世界マラリアの日 (英語)

<https://www.worldmaliaday2018.org/>